

第 4 次甲府市観光振興基本計画 第 2 回策定検討委員会議事録

日時	令和 7 年 11 月 10 日（木）15:00～17:00	
場所	甲府市役所 7 階会議室	
参加者	委員	吉田 均【委員長】雨宮 正英【副委員長】笹本 健次【副委員長】 橋本 博之、近藤 誠、小沢 宏至、芦澤 卓夫、川崎 靖、池田 敬哲（代理）、中澤 大、萩原 爲仁 上原 勇七、二宮 智浩、雨宮 潔、竹村 潤一、籠谷 奈緒 波木井 淳一、依田 順子
	甲府市	山本 丹一、芦川 晋吾、後藤 宗隆、藤巻 健、古屋 佑典
	ラッド・ブレイン	齋藤 元嗣、榊原 由子、川又 豪士（記）
内容		
<p>議事</p> <p>はじめに：委員長挨拶</p> <p>（１）目指すべき観光地像について</p> <p>（２）各種調査について</p> <p>（３）骨子案について</p> <p>（４）その他</p>		
発話者名	発話内用	
【委員長挨拶】		
委員長	<p>今日は、お忙しい中お集まりいただき、本当にありがとうございました。</p> <p>今回より観光計画の具体的な内容について話し合うことになります。</p> <p>皆様もご存知のように、これから 2070 年にかけて日本は人口の 3 分の 1 を失います。その中で、観光産業は成長が可能な、交流人口が拡大できる可能性のある産業となっています。そんな観光計画を作ることになります。</p> <p>作業は大変なこともあると思いますが、是非、皆様の積極的なご参加とご意見をよろしくお願いいたします。以上です。</p>	
事務局	【議題 1 目指すべき観光地像について】	
	<p>初めに議事（１）「目指すべき観光地像」についてご説明させていただきます。</p> <p>お手元に配布をさせていただいております。</p> <p>「アンケート結果による本市の魅力や課題」では後ほどの議事（２）にて、詳しくご説明させていただきますが、先日実施した市民アンケート及び観光客アンケートについて、本市の魅力及び課題をまとめさせていただきました。</p> <p>まず、市民アンケートでは、本市の魅力として、「御嶽昇仙峡」、「武田神社」、「ぶどう」、「桃」、「温泉（湯村温泉等）」、「信玄公祭り」、「県立美術館」、など自然・歴史・文化に係わる資源が多く挙がりました。</p> <p>課題は、交通アクセスや観光施設に関する満足度が低調であり、充実に対する要望が多く挙げられました。</p> <p>次に、観光客アンケートにつきましては、市民アンケートと同様に、自然、歴</p>	

史、食、温泉についての満足度が高く、課題は滞在時間の短さや宿泊率の低さでした。

次に、市長の観光に対する思いやビジョンを、本計画の「目指すべき観光地像」反映させるべく、10月24日に市長に対しヒアリングを実施致しました。

ヒアリングの中では、「甲府らしいまちづくり」「街歩き」「山の都」「歴史文化の磨き上げ」のほか、「組織の整備」や「県央ネットやまなしの連携強化」といったキーワードが挙げられました。

また、現在策定中であります、本計画の上位計画である「第七次甲府市総合計画」で示されている「目指すべき都市像」は、「幸せ実感 希望ある未来を創り続けるまち 甲府」とされており、観光分野につきましては、自然・歴史・文化・地場産業を生かした魅力の磨き上げや、「ウェルビーイング」、地域への愛着などが求められております。

以上、本市の「魅力」や「課題」、「市長の思い」と「第七次甲府市総合計画」を踏まえ、本計画の目指すべき観光地像の案を『自然と歴史、文化にふれ、人との出会いがしあわせを生む 誇りある山の都 こうふ』といたしました。

コンセプトにつきましては、本市の観光は、雄大な自然、城下町として受け継がれてきた歴史と文化、人々のあたたかな気質といった「甲府ならではの魅力」に支えられています。この多彩な魅力にふれることは、本市を訪れる人に非日常の体験をもたらし、心に残る感動を与えるほか、人との関わりを通して「しあわせ」を実感できる時間へとつながっていきます。

こうした出会いや体験の積み重ねは、本市に賑わいを生み、市民にとっても“誇りをもって人に勧められるまち”としての意識や、おもてなしの心を育てていきます。

また、本市は、四方を山々に抱かれた甲府盆地に位置し、都市機能と豊かな自然が調和した風景を有しています。登山やハイキングに加え、歴史や文化を感じながら楽しむ街なかの散策など、「山とまちの魅力を一度に味わえる」ことが、本市独自の魅力と考えます。

こうした「甲府らしさ」を象徴する言葉として、これまでも用いられてきた「山の都 こうふ」を、本計画では観光地像の中心に据え、キャッチコピーとして積極的に発信し、自然・歴史・文化・人の魅力が息づく「山の都 こうふ」のイメージを広く浸透させていくことで、本市の観光ブランド力の向上を図ります。

観光は、訪れる人と暮らす人が互いに良い影響を与え合い、地域への愛着と活力、また賑わいが循環する原動力となります。観光を通じて、訪れる人も、暮らす人も、しあわせを感じられる 山の都 こうふ の実現を目指します。

以上、本計画の目指すべき観光地像（案）となります。よろしくお願いいたします。

A 委員

ご提示いただいている案について良いと思いますが、山の都という言葉は十数

年くらい前に盛んに使った言葉で、その後あまり見かけなくなって、またここでリバイバル風に登場してきました。個人的にはこの山の都はいい言葉だと思うので観光のキャッチフレーズの中に入れるにはいいと思いますが、20年前くらいに一度使ったものを再度使って、今度は観光の色々なものに、この山の都と言うフレーズをつけていくという意味でいいのでしょうか。

これからもう一度、山の都と言うフレーズを外に発信していくという意味でよければいいのですが、どこからか横槍が入って、これ昔使っていたじゃないのという言葉が出てくるかもしれませんので、その辺のことは織り込み済みであえて使っているのかどうか。

それから、アンケートや市長の思いの中に山という言葉が端的には出てきませんけれども、確かに山に囲まれているという意味ではこれでいいのかなと思うのですが、その辺の整合性を事務局としてはどんなふうにお考えなのか、お聞かせいただければと思います。

委員長

今のご質問ですが、山の都は以前頻繁に使っていたことがある、それをリバイバルさせることで問題はないか、山というキーワードが度々出てくるがそれでよろしいかどうか、ということですね。

加えて、1点だけ補足します。

観光地像の文章ですが、このまま、もしくは部分を切り取って観光キャンペーンなどに使われる可能性があります。

とても重要な表現になります。では、事務局の方からお答えをお願いします。

事務局

今回「山の都」というフレーズを使わせていただきました。確かに、この山の都はかなり前から使われていたフレーズで、ずっと使い続けてきたというと、そうでもないところもございますが、ただ、あえてやはりここで、先ほどA委員が言う通りリバイバルしていきたい、ここでもう一度使っていきたいという思いが事務局としてはございます。

その1つといたしましては、市民アンケート、甲府市ではここ最近、コロナ禍から、山を活用した事業、山歩きまち歩きといった事業を強く推進しておりまして、市長も非常にこの山歩きまち歩きを事業として皆様に活用して楽しんでもいただきたいという思いがございますので、このようなフレーズを入れさせていただきます。

B委員

ジュエリーという言葉が一言も入っていません。甲府はジュエリーのまちということで、ふるさと納税も多分多いし、結構ジュエリーで入っていると思うのですが、何か山梨、甲府イコール宝石という形、ジュエリーというものが入った方がいいのかなというものが少し思いました。

委員長

ジュエリーというキーワードがどこかに入らないかということですね。

事務局はいかがですか。すぐに出すというのも無理かもしれませんが、検討する、しないなどご発言をお願いします。

事務局

ジュエリーは甲府が推している産業の一つというところでございます。ジュエリーという言葉とするとどこに含まれているかという、歴史や文化、この2つに含まれていると考えております。

本日はジュエリーの具体的な取組は議事には入ってないのですが、もちろん第3回では、具体的な取組でジュエリーは重点施策として推進していくという考えではございます。以上です。

委員長

入るか入らないか、これからまた検討してみようということではよろしいですか。

事務局

はい。そのように検討させていただきます。

C 委員

コンセプトのところを見ますと、甲府を違う市名にしても全く通用するような文章だと思っています。

いくらコンセプトだとか全体の観光地像を作るとしても、ある程度甲府らしい具体性を入れたコンセプトにしていただかないと、どこでも通用するような抽象的な言葉はいくら使っても「何をやっているかさっぱりわからん」という風に正直思います。もう少し、今の B 委員のジュエリーを入れるとか、湯村温泉と具体的に入れたっていいじゃないですか。ある程度具体的なことを入れないと、いくらコンセプトを作るにしてもさっぱりわからないということになるので、もう少し具体的な内容を入れていただきたい。

事務局

コンセプトにつきましては、大枠という形で表現をさせていただいておりますが、誰もが読んで分かりやすい形で工夫をしていきたいと思います。先ほどの具体的なキーワードを入れてくところはまた検討をさせていただきたいと思います。

A 委員

「誇りある」という言葉ですけれども、我々にとっては誇りある甲府なのですから、観光客を呼ぶ上でこの誇りあるというような言葉が本当に効果的で必要があるのかなということは少し思いました。

この辺も合わせて、さっきの2つの B 委員や C 委員のご発言を織り混ぜて、少し修正していただけたらと思います。

D 委員

キャッチフレーズについては、多分年代関係なくだと思うのですが、少しやはり、何か古さというか、惹かれません。

これを聞いてワクワクして甲府に行こうという気持ちには正直ならないと思うので、もう少し、どの辺がターゲットなのかとか、もう少し絞った感じ、漠然

と言葉を繋げた感じがします。

誇りあると言われても、20代、30代には誇りってなんですか、のようなところもあるかと思うので、誇りというものを何か違う言葉に変えとか、「文化に触れ」も何か違う言葉などにできないのかなということをもう少し考えてもらうと、このキャッチフレーズがもう少し生きてくるのかなと思います。

これを聞いて、やはり甲府に行きたいなとか、甲府って素敵だなんて思えるような何か惹かれるものがあるってほしいし、これが観光のキャッチフレーズでポスターになるなら、誇りある山の都甲府って言われても惹かれないのではないかなと思うのですが、皆さん、どうでしょう。

なにか惹かれますか。武田信玄を出したら全部誇りがありますものね。では何か違うものはないですかと思います。

事務局

確かに誇りあるというところはどちらかというと市民目線というようなところがございまして、観光客の皆さんが見てわかりやすく、そして、D 委員がおっしゃられました通り、ワクワクするとか行ってみたいとか、そういった視点を持って少し検討させていただければと思います。

E 委員

もう少し端的に短いキャッチフレーズの方が色々な世代に響くのではないかなと思うのですが、もちろん難しいと思うのですが、やはり、これを自分で全部読んでくるというのは、なかなか長いのではないかなと思いました。

委員長

皆さんの共通した意見としては、文章が長いのではないかというのがあるようです。

これは目指すべき観光地像ですので、キャッチフレーズではありません。ただし、この一部分を取り出してキャッチフレーズを作っていく可能性はあります。

その一部分を取り出した時に、やはり甲府だよなと思えるような何かが含まれていない、ワクワクするような何かが含まれていないというようなご意見だったと思います。

今のご意見を参考にしながらぜひお考えください。

例えばですが、実はすぐそこには秩父多摩甲斐国立公園があります。さらに、山手通りから北はユネスコエコパーク、つまり国連が選んだ生物多様性地域です。昇仙峡は日本遺産に認定されております。

世界的に見ると、もしくは日本国内で見ると、そういう特別地域がたくさんある街なのですが、住民に知られていないと思います。おそらく市長の意思は、そのものをもっと住民に伝えたいという点もあるのではないかと思います。

世界に選ばれた山の都とかイメージが変わってくるような気がします。では、以上の点も加味して、申し訳ありませんが、文章をもう少し練り直してみてください。

もっとピタッと伝わるようなキャッチーなもので、計画の全体を表すようなものであればということです。

【議題2 各種調査について】

ランドブレイ
ン株式会社

それでは、「第4次甲府市観光振興基本計画」の策定にあたり実施している、各種調査の概要についてご説明いたします。

今回実施しているのは、市民アンケート、観光客アンケート、事業者アンケート、そしてインバウンドアンケートです。それぞれの対象や目的、実施方法について順にご紹介します。

まず、資料左上、市民アンケートです。

9月19日から10月7日までで実施いたしました。

回答者数は277件となっておりこの結果は、計画策定の中で、甲府市の観光の現状把握や、目指すべき観光地像の実現に向けた推進体制の検討に活かしていきます。詳細につきましては、後ほど説明をさせていただきます。

続きまして、観光客アンケートです。

調査は9月19日から9月30日まで実施いたしました。この調査は、来訪者と非来訪者、それぞれ500サンプルずつ、合計1,000サンプルを対象に実施しました。

回答者の属性として、調査地域は、関東圏が約8割、中京圏が約2割となっています。この結果に基づき、来訪者からは満足度や改善点、非来訪者からは来訪を促すための要因を整理し、施策検討に活かしていきます。こちらにつきましても、詳細につきましては後ほど説明をさせていただきます。

続きまして、事業者アンケートにつきまして、調査期間は10月8日から実施しており、現在集計を進めているところです。

調査にあたっては、市内の観光関連事業者54社にご協力をいただいています。

また、主要な団体については、必要に応じてヒアリングも実施しています。

調査内容は、事業形態や経営状況等であり、事業者の経営実態や課題を把握し、観光振興に関する期待や要望を整理することで、今後の施策や取組体制の検討に反映していきます。

最後に、資料右下のインバウンドアンケートです。

この調査については、前回の委員会時に委員の皆様からご意見をいただき、追加調査といたしました。来訪外国人や市内宿泊外国人、そしてユニタス日本語学校の学生を対象とし、11月14日から28日の期間に実施予定となっております。

実施方法としては、3つのアプローチを予定しています。

まず、観光案内所に加えて昇仙峡、武田神社、山梨県立美術館などの市内観光地での対面アンケート（目標サンプル数50件）。次に、市内ホテル・旅館を通じた調査（目標サンプル数100件）。そして、日本語学校での調査（目標サンプル数50件）です。

内容は、来訪きっかけ、情報源、観光資源の認知度、不便に感じた点、旅行形態や満足度、消費額、再来訪意向などを中心に調査します。また、この調査結果に加えて、現在「甲府観光開発(株)」さまが進めております「インバウンド動向調査」の情報もいただきながら、インバウンドの実態を把握し、海外から見た甲府市の魅力や課題を明確にし、今後のインバウンド施策の検討に反映していく予定です。

以上、4つの調査を通して、市民、観光客、事業者、そして外国人旅行者という多角的な視点から現状を分析してまいりたいと思います。市民アンケートと観光客アンケートの調査結果については、この後ご説明させていただきます。ここからは「市民アンケート」と「観光客アンケート」の結果についてご説明させていただきます。

お時間の関係もございますので、要点を中心にご説明いたします。

なお、アンケート結果の概要につきましては、資料2-2「市民アンケートと観光客アンケートの結果概要」に記載をしておりますが、グラフや表と一緒にご覧いただくため、資料2-3「市民アンケート結果」に沿って説明をさせていただきます。

それでは初めに、市民アンケートについてご説明させていただきます。

回答者の属性につきましては全体の約6割が女性となっており、年代構成は、50代が最も多く、次いで60代、40代と続きます。「甲府市を観光地としてどの程度紹介したいか」については、「紹介したい」と答えた方が全体の約半数、47%を占めており、多くの市民が甲府市に一定の誇りや愛着を持っていることがうかがえます。ただし、40代以下の若年層や、居住年数の短い方では、紹介意向が低い傾向が見られました。

市民のお気に入りの観光資源については、上位には「ぶどう」「桃」「信玄公祭り」「昇仙峡」「温泉」「武田神社」「山梨県立美術館」などが挙げられています。これらは県外からの人気も高い観光資源であり、市民にも共通して支持されている点が特徴です。

今後PRや活用を望む資源としても、昇仙峡や温泉、甲府城、信玄公祭り、遊亀公園動物公園などが多く挙がっており、市民の関心は現在の観光の核となっている資源に集まっていることがわかります。

P6～P21については分野ごとのグラフや、クロス集計の結果となっています。

「お気に入り」や「もっと注力すべき」観光資源を歴史・自然・体験・文化など、ジャンル別に性別や年齢でクロス集計したものとなっています。今回はお時間の都合上、詳細の説明は割愛させていただきますので時間のある時にご覧ください。

甲府市の主要観光地やスポーツ施設の満足度についてです。

「武田神社」、「御嶽昇仙峡」、「信玄の湯 湯村温泉」、「甲府駅周辺」、「小瀬スポーツ公園」の5施設についての報告となります。

武田神社につきましては、観光満足度は「満足」「やや満足」を合わせて約7割

と高く、アクセスや清潔さ、安全性の評価も良好です。

一方で、周辺の飲食・宿泊施設の満足度が低く、環境整備の充実が課題とされています。

昇仙峡は観光の満足度が非常に高い一方で、市中心部から離れていることもあり、公共交通によるアクセスや宿泊施設への満足度が低い傾向にあります。

信玄の湯 湯村温泉は温泉街という特徴から宿泊満足度が高いものの、飲食店などの周辺施設が十分でない点が課題として挙げられました。

甲府駅周辺ではアクセス性や飲食施設の評価が高い一方で、駐車場混雑への不満が目立ちました。

小瀬スポーツ公園につきましては、「満足」「やや満足」は約 6 割で、清潔さや安全性が高く評価されています。

ただし、周辺の飲食や宿泊などの施設が少なく、滞在・回遊の促進が今後の課題といえます。

このように、各観光地で魅力と今後解決すべき課題がはっきりと分かれていることが判明しました。

「どのような観光客に来てほしいか」という設問です。

最も多かったのは「リピーター」で 6 割以上を占め、次いで「消費意欲の高い人」「新規来訪者」と続きます。

一度きりの観光客よりも、継続して訪れ、地域経済に貢献してくれる方を歓迎する傾向が見られます。

「どのように甲府市の観光にかかわることができそうですか」につきましては、「SNS などでの情報発信」や「地域美化活動」「イベント参加」が多く、市民の約 4 割が観光に何らかの形で関わりたいと考えていることがわかりました。

「持続可能な観光地としての満足度」につきましては、「満足・やや満足」が合わせて 17.3% に対し「不満・やや不満」が合わせて 47.6% となっており、持続可能な観光に対する評価は高いとは言えない現状にあります。

「観光振興によるまちの活気を実感しますか」については、「実感する」と答えた人は 2 割程度にとどまっています。

観光による経済効果や生活への好影響が、市民の実感としてはまだ十分に届いていないことがわかります。

「観光客の増加による生活環境へのプラスへの変化」につきましては、実感していることとして、「生活環境の向上」と「地域経済の活性化」が高く、今後、期待していることとしても、「地域経済の活性化」「生活環境の向上」が高く示されています。

逆にマイナスの変化につきましては、「マナー違反」「交通混雑」「治安の悪化」など、いわゆる“観光公害”への懸念が強く示されています。この点は今後の受け入れ環境整備において重要な課題となります。

現行の第 3 次甲府市観光振興基本計画の認知度につきましては、7 割の市民が

「全く知らない」と回答しており、計画自体が市民に十分浸透していない現状が明らかになりました。

これについては、計画書そのものへの認知度を高める取り組みではなく、観光行政に住民参画を促す取り組みや、計画に基づく具体的な施策や成果を市民が実感できる形で発信していくことが重要であると捉えております。

次期計画に盛り込んでほしい内容につきましては、

「交通アクセス改善」が 49.8%、「観光施設・設備の充実」が 35.7%、「観光資源の磨き上げ」が 31%、「自然資源の保全」が 29.6%となっていることから、ハード面での整備に対する要望が多い結果となっています。

なお、国が策定している第 5 次観光立国推進基本計画の中でも、交通に関しては重要な項目として盛り込まれていることから、甲府市においても質の高い住民生活と観光地の両立において、今後検討すべき事項であるといえます。

続きまして、資料 39 ページをご覧ください。「これまでの甲府市の観光に対する総合的な満足度」については、「大変不満・不満・やや不満」の合計と「どちらでもない」が共に 37.9%と満足層よりも多く、甲府市観光に不満を持つ層とあまり関心がない層の比率が高いことがうかがえます。資料 40 ページから 50 ページにつきましてはクロス分析となっており時間の関係もあることから、時間のある際にご参照ください。

51 ページ以降は自由記述となっており、「交通」に対しての意見や、「駅周辺の環境」に対する意見が多く見受けられました。

市民アンケートの報告については以上です。

続いて、観光客アンケートの結果報告をさせていただきます。

初めに、甲府市に来訪経験のある回答者についての調査結果についてご説明いたします。本市への来訪回数の特徴といたしましては、「1 回のみの訪問」が約 7 割を占めており、リピーターの割合は約 3 割となっております。

市内の訪問エリアは、中部（武田神社・中心市街地）が 71.8%、次いで北部（昇仙峡地域など）が 39.6%となっています。

「甲府市訪問時の同行者」につきましては、家族（子連れ）が 29%で最も多く、次いで家族（夫婦）が 25.4%となっており、R2 年と比較して、家族や夫婦での割合が減り、一人や友人との割合が増えています。

また 30 代、40 代は家族（子どもと）での来訪割合が多くなっています。

旅行時の情報入手についてです。

「家族・友人の紹介」が 25.2%、「ネットで偶然みつけた」が 22.4%となっていることから、口コミや偶発的な発見が中心となっています。

特に 20 代までは SNS や YouTube, 40 代以上は Web サイトが中心であることから、年齢によっても情報収集手段にばらつきがみられます。

滞在時間につきましては 6 時間以内が 50.6%となっており、宿泊率は 26.4%にとどまっています。日帰り・短時間滞在が主流となっていることから、滞在型観光への転換が課題となっています。

旅行時の消費額についてです。甲府市来訪者の平均消費額は 1.8 万円となっており、これは甲府市非来訪者の平均消費額約 3.3 万円を下回っております。これは先ほども申し上げた通り、短時間・日帰り滞在が主流になっていることが、消費額の伸び悩みの理由であるといえます。

甲府市への来訪理由につきましては、「ぶどう」「ほうとう」「信玄餅」「桃」など、食や果物を中心とした内容が上位を占め、文化体験やまち歩きといった観光行動はまだ少ない状況です。

「甲府市のイメージ」につきましては、「地元ならではのおいしい食べ物」「特産品」「温泉」といった項目に対する評価が多い一方で、「アクセスが良い」という回答は 2 割程度にとどまり、交通の不便さが印象として残っていることがわかります。

続きまして、甲府市に来訪経験のない、「非来訪者」の意見についてご説明させていただきます。

非来訪者の情報入手経路につきましては、「ネットで偶然」31.4%、「家族・友人の紹介」30.6%となっていることから、初めから旅先を決めて情報を収集している層が少なく、来訪者同様、偶発的な発見が中心となっています。

甲府市への非来訪理由につきましては、「何があるかわからない」が 41.8%、「魅力のある観光地がない」が 20%となっており、情報発信と認知不足が来訪の障壁となっております。

来訪するための条件（期待していること）については、「魅力ある観光地・地域資源がある」が 40.4%、「食（郷土料理・特産品）」が 39.0%、「観光施設・娯楽施設」が 35.4%となっており、自然・食・体験型への期待が高いことがうかがえます。

観光客アンケートに関する報告は以上となります。

最後に、こうした調査全体から見える主な課題を整理いたします。

第 1 に、「情報発信」です。観光客・市民の双方に十分情報が届いておらず、非来訪者の約 4 割が「何があるかわからない」と回答するなど、観光地としての認知度の低さがうかがえます。

また、情報の入手先としては「偶然知った」「友人の紹介で知った」といった回答が多く見られ、偶発的な接触に偏っているといえる一方で、リピーターや口コミ拡散の可能性につながるとも言えます。

情報取得の手法が多様化していることもあり、ターゲット別の発信等も戦略の一つとして検討していく必要があります。

情報発信については、SNS や動画などを活用した戦略的な情報発信、そして地域全体で統一感のあるブランド発信が求められます。

2 つ目に、「交通の充実」です。昇仙峡や信玄の湯湯村温泉など主要スポット間の移動が不便で、観光回遊性を妨げています。交通不便については来訪者、市民共通の課題となっていることから、今後は公共交通と観光交通を一体的に捉

え、周遊バスやモビリティの導入など、多様な移動手段の整備の検討が求められます。

3 つ目に、「滞在・体験の深化」です。短時間滞在型から、宿泊・体験・ナイトコンテンツなどを通じた時間消費型観光への転換を図る必要があります。「食」や「果物」などを目的に訪れる一方で、体験型・文化型・夜型の観光メニューが少ないことから、通過型の観光となっており、再来訪や長時間滞在に結び付きにくいという現状があります。

今後は時間消費型の観光コンテンツを育成し、域内の回遊・消費の促進につながる取り組みの検討が必要です。

4 つ目、「市民参画」です。観光の成果が住民の生活実感に結び付いておらず、また、市民が観光まちづくりに主体に関与できる仕組みが整っていないという課題があります。観光が生活の豊かさにつながっていくよう、市民が誇りを持ち、観光に関わる仕組みづくりが求められます。

5 つ目に、「ブランド力の向上」です。食に対する認知度は高いものの、観光客の半数以上が「何があるかわからない」と回答していることから、市全体のブランドが確立されていないといえます。

「山の都」や「湯と食のまち」といった総合的な都市ブランドを確立することが重要であるといえます。ブランドの構築は、観光振興だけでなく、今後の関係人口の促進や移住・定住施策、地場産業振興にも波及すると考えられます。

そして最後に、「受け入れ環境の整備」です。

市民アンケートでは所謂「観光公害」に対する懸念が寄せられています。

今後の観光の拡大が、地域の「質的持続性」が損なわれる要因になることを阻止する必要があります。「地域住民・観光客・事業者の三者が、経済・社会・環境のバランスを取りながら、長期的に共存できる観光のあり方」を検討し、観光客の受入整備を進めるとともに、訪れる人も住む人も快適に過ごせる環境を整えることが不可欠であるといえます。

以上、駆け足になりましたが、市民および観光客アンケートを踏まえた現状と課題の整理となります。

委員長

今回、アンケート資料調査の全文を出していただいたのは、これから事業の概略を考えていく上で参考になる部分がとても多いと思います。

市民がどう見ているか、それから観光客がどう見ているか。

特に甲府に来た観光客と来なかった観光客を比較してアンケートを取っています。

全体を把握するのが少し難しい分量になっていますので、まず資料の 2 をご覧になってからこの本文の方をご覧になるとさらにわかりやすくなるのではないかなという気はします。

この部分については、まず私の方から少しだけご説明を。この資料の 2 の 1 をご覧ください。

実は過去に観光計画を作る上でここまで調査をしたことはございません。
非常に貴重な資料です。簡単な 1 枚紙になっていますが、そう簡単なデータではありません。残りの 2 つの部分（事業者アンケート・インバウンドアンケート）がまだ届いておりませんが、ぜひ市民アンケートと観光客アンケートの要約を読んでから本文の方も読んでいただけると助かると思います。
大変な調査を今していただいている最中です。その過程で、これをぱっと見せられてもなかなかわからない点もあると思うのですが、気がついた点もあると思います。
なんでも構いません。皆さんの方からご質問があればお願いいたします。

C 委員

今、ざっと駆け足で自由記載欄というのを読ませていただきましたが、アンケートを書いていた皆さんの方が、よほどの的確に甲府市の欠点あるいは弱点を突いていると思います。
私も湯村温泉で再開発をしていて、まさしくこの辺をいかに補完するかということを中心にやっているのですが、そのものずばりで使っています。
非常に皆さん鋭いなと感銘しましたし、私がやらなければいけないことも実際に合っていると思いました。
言いたいのは別のことなのですが、このアンケートをいただいた中でここから導き出されるものがさっきの目指すべき観光地像なのかと、一体これにどうやって繋がるのか。このアンケートが一体どこに反映されているのかと思う。

A 委員

このアンケートでは本当にいい意見がいっぱい出てきています。
特に甲府市民にアンケートをとってみると、甲府城だとか武田神社とか善光寺をもっと活用すべきだっていう風に言っているけれども、旅行者にそのアンケートを取ってみると、何故ここへ来たかという、ブドウとか、ほうとうとか、信玄餅も、あるいはワインというのは上位に出てくるでしょう。
ブドウもほうとうも信玄餅も桃もワインもそうですけど、これ甲府特有の物じゃないのです。
だから旅行者は山梨全体のイメージを甲府に被せて見ているだけで、武田神社や甲府城みたいに甲府にしかない観光のポイントを狙って来ているわけではないんです。
だから、そのポイントがやはり弱いのだと思います。
湯村温泉もそうかもしれないけれども。だから、この観光計画では、市民にも旅行者にも甲府固有の観光施設や観光コンテンツを上位にあげてもらえるような、そういう施策をこの基本計画の中に盛り込んでいかなければいけない。
だから、やはりこの両方から読み取れるのは、自分たちがここを押したいと思っている市民、それから桃やブドウを甲府と結びつけてしまう旅行者、この辺のギャップをしっかりと反映させた、その中には宝飾も入ってくるかもしれませんよね。そういう基本計画にするべきだし、そのコンセプトにしていく必要が

あるのではないかなという風に思いました。

C 委員

このアンケートを受け取って市はどう感じたのでしょうか。

私はこの目指すべき観光地像が出てくるといのはものすごくギャップがあるのですけれど、どんな感想なのでしょうか。

事務局

先ほどの目指すべき観光地像のところで皆様から様々なご意見をいただきまして、またアンケート結果を踏まえて、先ほど A 委員、C 委員からもご意見をいただいたところでございます。

この市民アンケートの魅力のところ、御岳昇仙峡、武田神社、食など、そういったところを汲み取ってこのような観光地像を事務局案としては提案させていただいたところではございますが、よりわかりやすく、先ほどあった甲府ならではの部分をしっかりと明確にして、甲府の魅力を伝えられるようなコンセプトにしていきたいと思います。

ランドブレイ
ン株式会社

今、市からもお話があったところではございますけれども、1 つ市民のご意見の中に、市の観光のイメージがあまりないとか、満足度のところでのご指摘があった部分、先ほどのご意見の中で、「誇りある」の部分についての再考はさせてもらうという前提のもとで、市民の方々が観光という意味での前向きな意見を持ってもらえるようにという思いは観光地像の方に込めたいというのは事務局としてあるところですので、その辺りは表現とか考え方でしっかりとアンケートの結果を盛り込んだ形での入れ込みというのは再度させていただきます。

委員長

この件、アンケートの内容についてもっと議論ができればいいのですが、実は私、この状態になる前のもう少しラフなものを 1 度読まさせていただきました。4 時間かかりましたが、読むに値するものです。このアンケート結果を使って、今回のキャッチフレーズはもちろんですが、事業のラインナップを考えていきます。ぜひ、お戻りになったら、概要、特に概要の 1 番最後の 2 ページがメッセージです。

ここもしっかり読んでいただいて、次回以降、事業のラインナップを考えていきますので、何の事業をするのかという事業が市から上がってきます。それから、今度は具体的な事業のラインナップで作っていきます。次回の会議の時に、その内容についてお見せいたします。ぜひご覧ください。

あと、先ほど A 委員がおっしゃっていたポイントがまさに 1 番重要なポイントです。ヒットしているものは、湯村温泉や昇仙峡や武田神社という甲府市固有のものもあるのですが、実はぶどうにしろ、桃にしろ、周辺地域の方が多いよ、というものがたくさんあります。中には信玄餅というものが入っています。つまり、甲府市だけに観光客を集めるのか、県央ネットなどを使って周辺

の市町村と協力しながら、ここに足りないものは周辺の支援を使うのか。この考え方1つで次回の会議の内容は大きく変わってくると思います。

あと、ぜひ皆さんに見ておいていただきたいことのポイントの1つは、市民アンケートの中で甲府市の観光に参加したい、何らかの形で貢献できるという回答が結構入っています。私たちはそういうものを十分に使えたのか。この計画は、甲府市の予算で甲府市の観光課がやるための事業だけではなく、甲府市全体で観光に使える事業がどんなものがあるのか、さらに、甲府観光開発のような周辺のDMOや観光業者の方のプロジェクトも中に取り込みながら、まち全体として何ができるのかを議論できればと思っています。峡東3市では実際にそういうことが始まっています。私たちもそういうものに参加しないでもいいのかどうか、そのあたりの内容がアンケート調査では出てきますので、先ほどのA委員の指摘はとても重要だと思いますので、ぜひそこも念頭に入れながらお読みいただければ幸いです。

A 委員

例えば、先ほど私が言ったように、市民は武田神社を観光地として売りたい、でも、実際に旅行者はそのそれほど武田神社に行きたいと思っていない。

このギャップというのは、まさしくタイトルのところにも出てきたように、本来、武田家の歴史とか武田信玄の歴史ということになると非常に興味深いものなのですが、武田神社という神社はそんなに歴史のあるものではないので、やはり武田氏館跡という整備の仕方をしていく、そういうものが具体的な事業計画や実施計画の中に出てくる。あるいは、武田二十四将の家があったような場所をどんなふうに観光に生かしていくのかということが、この武田関係の歴史を甲府の一番の売りとして持っていく時にはどうしても必要になってくるのだと思います。それから、例えば歴史で言うと、今、湯村温泉の歴史はこういうものだというようなPRをこの甲府市の観光計画の中で位置づけていく。このように、甲府の歴史にもっと重みを持たせて、観光客の来訪を促す、興味を持たせる要素になってくると思うのですね。

それが事業計画になったり施策になったりしてくると思うので、そういうことを加味して考えていただきたい。

そうすると、コンサルの皆さん考えていただいたこの項目はもちろんその通りなのですが、それより少し上位に、やはりそれぞれの甲府の魅力と思われる、あるいはこれから磨き上げていきたい場所をこういうふうに作り上げていくという、その部分もこの中へ入れていかないと、それがなくて交通だけどうしょう、という話では、やはり観光客が来ないのだから交通も整備しようがない、ということになってくると思うのですね。

だから、甲府市の観光のポイント、目的をもう少し絞り込んで、常に旅行者の1番上に選んでもらえるのは、武田氏館跡、名前だけではなくて、行けばそれが感じられるような場所への整備ということが不可欠になってくるのではないかなと私は思います。

C 委員	<p>A 委員のおっしゃる通りだと思います。武田氏館跡というのは大賛成なのですが、加えて、やはり甲府って甲府城もあって、非常に観光客にはなかなか分かりづらいですね。一体、甲府城と武田氏館跡とはどういう関係なのか、説明しないとわかってもらえないので、その辺もちゃんとアピールできるようにしていただきたいし、決定的な大事なことは天守閣作ることだと思いますので、それもぜひターゲットに入れていただきたいと思います。一朝一夕にはできないとは思いますが、そういうことを進めていくことも大事だと思っております。</p>
事務局	<p>武田氏と甲府城の繋がり、また甲府城、今年、南側に観光エリアを整備して、多くのお客様にも来ていただいておりますので、甲府城を生かした施策、事業を考えていきたいと思っております。</p>
F 委員	<p>私はジュエリー産業に携わっておりまして、先ほどもお話が出ましたが、ジュエリー産業は甲府で大きなイベントを、私もつい昨日、一昨日と行いました。県庁噴水広場でファッションショーもしましたし、色々なイベントをやっております。</p> <p>また、それ以外にも、ジュエリーマーケットとか、また、年1回、もう60年以上続いております甲府ジュエリーフェア、山梨ジュエリーフェアということで、国際的にここ数年前にしました。</p> <p>例えば、国際宝飾展には約6000名近くのお客様がお見えになり、皆さんホテルが取れないほどいっぱいになりましたし、飲食も満席で、相当の経済効果があったのではないのかなと思います。</p> <p>歴史はもちろん必要なことだと思いますけど、産業も色々なものを加えていただいて、お買い物のお土産、何も、ジュエリーの一言も、載ってもおりませんでしたけど、多少、ジュエリーも売れているのではないのかなと思います。</p> <p>本当に甲府市と一体となって、今、ふるさと納税も、多額のジュエリーもご寄付をいただいて、返礼品として有利になっておりますけど、そのようなことで、多くのお客様が甲府へ来て、色々な所を見学し、そうすると、山梨に住みたい、甲府に住みたい、または甲府に遊びに行きたい、ジュエリー買いに行きたい、見たい、そのようなことになって、温泉も入りたい、そんないいようなことになるのではないのかなと思いますが、またご検討していただきたいと思っております。</p>
事務局	<p>観光の振興には、やはり産業、これもジュエリーはもちろんですが、伝統工芸品、食べ物、そういったものも広くまた発信していくことで多くのお客様に来てもらえると思いますので、しっかり施策、事業に組み入れていきたいと考えております。</p>

A 委員	<p>今これだけ皆さんから意見をいただくと、骨子案についてもここで何か決めるとか承認するっていうのはちょっと難しいのではないかと思います。</p> <p>タイムスケジュールや中の枠組みだけお伝えするならいいと思うのですが、これだけ意見が出てくるともし骨子案なるもので方向性を少しでも示すとしたら、前提が崩れているわけです。</p> <p>骨子案については、今回ではなくて、それにもう一度ご提案いただくっていうことの方がいいのではないかと思います。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございます。A 委員からのご意見、皆さんいかがお考えでしょう。</p> <p>この骨子案というのは、基本的には報告書の目次とページのボリュームだけが書かれているものです。ここで議論せずに次に持っていくこともできます。ただ、もしそれをする場合、次からはこういう資料ではなく、報告書の原文の形で直接、もっと読みやすいものの形で出していただく予定です。計画書の原文を書いてもらうためには、どのぐらいのボリュームで書くのかというのがとても重要になります。ただ、たくさんのご意見が出たのも確かです。他の皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。A 委員のおっしゃることもごもっともです。</p>
事務局	<p>今回の骨子案につきましては今から説明があるのですが、このページを開いていただきますと、先ほど委員長がお話ししましたこの計画の構成、目次とその右側に想定するページ数というようなところでございますので、明確に事業に結びつくようなものではございません。</p> <p>ですので、事務局といたしましては、この限られた会議の回数がございます中で、できたら今回こちらの方をご審議いただければと思っております。</p>
C 委員	<p>次回の想定されるその発表する内容というのは、どういう内容になるのかわからないです。ある程度リアリティのある具体的な行動計画が出るのか、もっとぼやっとしたものなのか、それによって全然違ってくると思います。A 委員がおっしゃっていることは、そういうことは明確にしてからにした方がいいのではないかとということをおっしゃっているんだと思うのですが、その辺が市の考え方次第と思うのですが、どのような具合でしょうか。</p>
事務局	<p>次回、第 3 回につきましては、12 月の下旬を予定しております。</p> <p>そこでは、施策・事業の案をこちらからご提示させていただきまして、皆様からご検討、ご意見をいただくというようなところ、また、数値目標の設定、そして次期計画、素案をお出しするような形になりますので資料にある計画の記載内容想定、この項目この目次に従って素案を作成したものをお出ししたく、そのように思っております。できましたら、この項目と想定するページ数だ</p>

けは、今日この委員会の方でご審議をいただければ、スムーズに第 3 回を迎えられるのではないかと考えております。

C 委員

どこまでのこれが各論になっていくのかというのがわからないのですけれど、例えば湯村温泉は今再開発計画をマスタープランで作ってやっていますけれども、それをどのようにこの中に取り込んでいってくれるのか、その辺がわからないと、全く湯村温泉のマスタープラン関係なく作られても困ります。委員の皆さんがどこまでご理解いただいているかわからないので改めてマスタープランをお配りした方がいいのかなとか思うのですけれど、どうなのでしょう。

事務局

本市といたしましては、湯村温泉の活性化事業、こちらにつきましては今の第 3 次の計画から位置付けておりますもので、また引き続き次期計画には位置付け重点施策というようにところも踏まえて考えているところでございます。湯村温泉のマスタープランを配るかどうかについて、その辺についてはまた協議をさせていただければと思います。

委員長

湯村温泉のマスタープランについては、ぜひ皆さんに見てもらった方がいいと思います。さて、時間も押していますので、議長案を申し上げます。2 ページ目以降、資料の 3 の 1 の 2 ページ目以降を見ていただくと、実は、基本的には、どんな構成で何ページぐらい書くかという目次程度のものしかございません。記載内容については、出てきたもので審査します。つまり、ここは暫定的に書かれていると思ってください。素材も含めてです。それも含めて、私は、まず事務局からご説明いただいて、審議するかしないか、皆さんと一緒に挙手で決めていきたいと思います。では、事務局の方から、資料 4 の骨子案のポイント、ご説明してください。

【議題 3 第 4 次甲府市観光振興計画の方針】

ランドブレイ
ン株式会社

それでは、資料 3 - 1 「第 4 次甲府市観光振興基本計画の骨子案」をご説明いたします。

まず、作成方針につきましては、計画は、国の「観光立国推進基本計画」を参酌しながら、「観光地域づくり」と「誘客の取組」という二つの軸で構成しており、関連性につきましては図のとおりです。

また、PDCA サイクルがしっかりと運用できるよう、施策の目的や役割を明確に整理し、効果検証が行える計画とする方針です。

次に本計画の計画期間といたしましては、令和 8 年度から令和 13 年度までの 5 年間とし、期間中は計画の適切な進捗管理を行い、社会情勢等の変化の把握に努め、必要に応じて見直しを行います。

なお、本計画の位置付けにつきましては後ほど資料 3 - 2 「第 4 次甲府市観光振興基本計画の位置付け」にてご説明させていただきます。

次に計画の構成についてご説明させていただきます。

計画は大きく 5 つの章から構成されます。

まず序章では、計画策定の背景や目的、そして本計画の位置づけ、期間などを整理します。

第 1 章では、国や県、近隣自治体などの観光動向を踏まえ、甲府市を取り巻く観光環境を整理します。

第 2 章では、甲府市の観光の現況を多角的に整理します。

観光資源や市民・事業者の意識、交通アクセスの現状などを再整理するとともに、前回計画の取組成果をアウトプット・アウトカムの両面から評価します。

第 3 章では、甲府市が目指すべき観光地像を明確化します。

市民や事業者、観光客の意見、そして第七次総合計画との整合を踏まえ、甲府らしい観光のあり方を描きます。

また、これを実現するための基本方針を示します。

基本方針は、「地域経営」「誘客」「推進体制づくり」の三つの柱で整理し、持続可能で地域住民にも裨益する観光の仕組みづくりを重視します。

第 4 章では、目指すべき観光地像を頂点としたロジックツリー型の体系を構築し、基本方針に基づく施策とその具体的取組を整理します。

特に、エリア戦略や経済・社会・環境の持続可能性、市民ニーズの高い分野を重点施策として位置づけます。また、市民や事業者、観光客アンケートなどの結果も活用し、現状と課題を客観的に把握します。

第 5 章では、実現に向けた体制整備や進行管理の方法を明示します。

行政・観光協会・事業者・市民などの役割分担を明確化し、目標指標を設定することで施策ごとのステップを可視化します。

また、PDCA サイクルを通じて進捗管理や評価を行い、さらに、成果指標として KGI・KPI を設定し、目標達成度を定量的に把握いたします。

本計画は、観光を通じて甲府の地域価値を高め、住む人・訪れる人の双方が幸せを実感できるまちを目指すものです。

今後、章構成や記載内容をさらに具体化してまいります。

最後に本計画の位置付けについてご説明いたします。

本計画は、国・県・市の上位計画との整合性を図りながら策定するものとなっております。

国の「観光立国推進基本計画」、県の「やまなし観光推進計画」「やまなし未来観光地づくり推進計画」、などと方向性をそろえ、持続可能で質の高い観光地域づくりを目指す位置付けにあります。

また、上位計画である本市の「第 7 次甲府市総合計画」を参酌するとともに、各種関連計画の内容を踏まえながら目指すべき観光地像の実現に向けた観光振興の基本方針を示します。

説明は以上となります。

委員長	<p>委員長として、皆さんに、3つの案をこれからお示します。</p> <p>このどれに賛成かを1つで確認していきたいと思います。</p> <p>まず第1案は、資料に記載のおおよその内容、ボリューム、想定ページ数はこれでいいということにして進める、これが第1案です。</p> <p>第2案は、今ランドブレインからあった、中身にこういうものを書きますというものまでを決定して前に進むが第2案です。</p> <p>第3案は、A委員からあったように、これはまだ十分に見られていないので、次の審議とする。</p> <p>この3案を挙手で決めたいと思いますが、いかがでしょう。</p>
A委員	<p>多数決を取るということも、なかなか皆さんも手も上げづらいと思いますけれども、私としては、ページ数があるというのは、もうできてしまっているのかというようなイメージがあるので、項目だけでしたらまだ理解できたのですが、ここは1ページしか使わない、ここは何ページ使うというのは、いかにももう半ば完成しているようなイメージなので、そういうことにとらわれず、今皆さんのご意見が通るような形で次回ご提示いただくということであれば、別にここでストップするという意見ではありませんので、進めていただいてもいいです。これもあくまで目安で、やはり今皆さんがからいただいたご意見を基にすると、やはりページのボリューム感も違ってくると思いますが、そういうことも配慮をいただきながら進めていただければという風に思います。</p>
委員長	<p>A委員からそのようなご提案がありましたが、皆さんいかがしますか。</p>
C委員	<p>よくあるパターンとしては、色々な意見をお話しても、もうページがいっぱいですからこれ以上入りませんと、そういう回答を恐れていますので、ぜひそういうことは避けていただいて、このページ数は大体大まかなページ数ということで、我々が考えてぜひ取り込んでいただきたいものは必ず入れていただくということを約束していただければこれでいいと思います。</p>
委員長	<p>わかりました。今、修正のご提案も出ましたが、皆さんのご意見はいかがですか。</p>
B委員	<p>私は今、A委員が言われた方法が1番よろしいかと思います。</p>
委員長	<p>他いかがでしょう。では、挙手による決は取るのはやめ、一応この構成で書き始めていただいて、足りないものはどんどん足していく。ページはあくまで目安ということによろしいでしょうか。</p>

事務局 ありがとうございます。そのようにお願いいたします。

 次回、第 3 回の策定委員会作成検討会につきましては、基本方針や施策、事業の検討について意見をお伺いいたします。

 開催は 12 月の下旬を予定しております。改めてメールにてご連絡をいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【締め】

C 委員 ご覧になっている方もいらっしゃると思いますけれど、湯村温泉のマスタープランは完成しておりますので、それぞれ皆様にお送りしたいと思います。メールでお送りしますので見ていただければと思います。

G 委員 今日色々ご意見が出た内容というのは、ほぼ内部課題に終始していたような気がします。向こう 5 年間の計画を策定するわけですから、観光業の今後進む方向性や、観光客の今後 5 年間の指向性、あるいは他の観光地の成功例にどんなものがあるなど、外部的な視点を含めて決めていかないと、持っているものの中で頑張りましたということで終わってしまう危険性もあると思います。世の中の変化というのが読み取れるわけではないのですけれども、想定されることというのがあるように思いますので、広い視野で検討できるような材料が次回にあるとありがたいという風に感じました。

事務局 ありがとうございます。そのような形もしっかり頭に入れて進めていきたいと思っています。

B 委員 今日、議論の中にもあったのですけれども、やはり事前に資料をいただきたいなというところです。おそらく今事業者のアンケート集計中といったところかと思うのですけれども、これができ次第また共有をいただければというところです。次回の委員会の前に頂戴できたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

委員長 その点については、委員長の私から確約させていただきます。少なくとも 1 週間前には討議の資料を確定し、お送りできるようにしたいと思っています。

事務局 市といたしますと、今皆様方からいただきましたご意見等はしっかりと反映をさせていただきたいと思いますが、全てをというところまでは叶わない部分もあります。そこはしっかりと作り込む上で皆様にしっかりと説明をして、作り込んでいきたいと思っています。

 大事なはこの基本計画、やはり第 4 章以降の施策の具体的な取組等々で、そこを実効性のあるものを明記していくということは非常に大事だと思っています。

先ほど F 委員より、ジュエリーのお話がありましたが、ジュエリーにつきましては、2 年前から、業界の皆さんと市の方でプランを作りまして、その中にしっかりとプレイヤーを明記して、誰がこういう問題、こういう事業に取り組んでいく、市はこういう事業に取り組んでいくというような、非常に実効性のあるプランを昨年度末に完成をして、今年度は実行に移しているという状況でございます。

1 番最初に議論がありました観光地像というところも、貴重なご意見ありがとうございました。ランドブレインの方からのご説明いただいたこの誇りあるというキーワード、これは実は市の方も少しこだわっているキーワードでございまして、まさにこの「誇りある」の主体は住民の方々、また事業者の方々であるというような部分がございます。やはり外からのお客様を受け入れるためには、地元の事業者様、市民の皆様が広報を、しっかりと自慢をしているというようなベースが間違いなく必要だというふうに考えておりまして、今回このキーワードは入れさせていただいたというようなところでございますので、今日の皆様のご意見をしっかりと踏まえながら再考をしていきたいと思っております。

委員長

ありがとうございました。以上をもって私の方からの進行は全てでございます。事務局から何かございますでしょうか。

事務局

委員長、ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましても、貴重な審議を賜り、誠にありがとうございました。

もし他になければ以上を持ちまして第 4 次甲府市観光振興基本計画第 2 回策定検討委員会を終了させていただきます。

長時間にわたりありがとうございました。

以上